

HopStepJump 8

授業づくり⑥

～ 言語活動の充実と学習評価について～

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

初任者研修第8回は、兵庫教育大学大学院教授の吉川芳則先生に、「言語活動の充実と学習評価について」というテーマで動画にてご講義いただきました。授業づくりを柱に、教員としていつも意識しておかなければならないことを温かさをもって話してくださいました。「長い・くどい・つまらない話」「子どもにとっての話すモデル」「もう5分子どもたちに時間を返す」など、吉川先生の講義のキーワードでみなさんの1学期の授業や指導を客観的に捉え、2学期が始まる前に考える機会となったことでしょう。

この研修通信と合わせて自身の振り返りシートを見返し、講義から学んだこと・講義を通して考えたことをおさえ直して、引き続き2学期の授業づくりに励みましょう。

～振り返りシートより～

1学期の自分の様子を振り返ると、毎日の授業や子どもとの関わりに対して必死になりすぎていたと感じました。言葉づかいや表情を意識して話すことは心がけていましたが、いつも子どもたちが見ていて聞いているという意識が足りていなかったように感じます。吉川先生の話し方がまさにモデルで、対話的な話し方・にこやかな表情・弾むようなリズムある話し方がとても参考になりました。2学期からは、つなぎ言葉を大切にして、短く簡潔に、そして子どもも私も楽しめるような話をめざしたいと思います。

2学期はもっと児童が主体となって授業が進むようにしたいです。児童の声で授業の最後まで進んでいくように、それをサポートする役割を教師は担っていると思いました。これが教師として理想なのでそれをめざしていきたいです。そのためには、まず児童に対して「教えなければ」という意識をなくしたいです。これまでは、この意識が強くなりすぎたために、教師が一方向的に話して指導するという授業になりがちでした。講義型の授業は主体的な授業よりも、印象も学ぶ内容も頭に入りにくいので、逆効果だと思いました。児童に思考を促すような問いかけを増やしたり、まとめの部分を問うて自分の言葉でまとめさせたりと、自分の考えを自分の言葉で話したり書いたりする活動をもっと意識して取り入れていきたいです。

板書の工夫についてのお話では、自分自身板書計画がいつも甘く、吉川先生が話されていた『べた書き』の授業がほとんどでした。授業後に自分の板書を見ると、めあてにしていた部分がどこなかわからなくなっていました。大人でも見にくくわかりにくいということは、子どもたちはもっとわからないので、吉川先生が話されていた板書をシンプルで大胆にするために、見通しをたてて授業準備をしていきたいです。

今後の目標は、言語活動を量的に充実させることです。講義の中で「もう5分子どもに返そう」とありましたが、45分の授業から5分まとめて言語活動の時間を確保するのは難しいのではないかと感じましたが、隣の人と2分相談する機会や、考えをノートに1分でメモする機会など、時間を上手く区切って機会を増やせば、量的な言語活動の充実ができるのではないかと感じました。質的な充実もめざしていきたいですが、まずは十分な量を確保することを目標に授業づくりを行いたいです。

1学期が終わりを間近に控えた頃、クラスの子が「先生、今日つかれてる？しんどい？」と言ってくれたことがありました。今思えば、私の表情や声から子どもたちに伝わってしまっていたんだなと思います。この経験や先生の講義からも、改めて表情や声の大切さを感じました。また、自分の声を自分の耳で聴けるほど、落ち着いて話すこともできていなかったらうなと反省することもできました。上手な褒め方や、板書、聴いたあとに問うことなど、意識し、少しずつでも2学期から成長していきたいと感じました。

すごくよく分かります！子どもたちは細かいところもよく見ていて、気づくものですよ。そして、年間を通して長く深く関われる担任だからこそ、クラスの子もたちが似てくることもしばしば…。言葉づかいはもちろん、態度や振る舞い、意識していることなどの「心持ち」も似てくるものです。「モデル」や「お手本」と言われるとプレッシャーかもしれませんが、子どもたちに伝えられること・伝わるものは、これまでもこれからたくさんあるのでは？！

自分自身の授業を振り返り、改善していこうと強く思いました。体育の授業を行う中で、作戦を立てたり、話し合わせたりする時間をとっていますが、考えを深めさせる時間よりも運動量の確保に意識がいきがちなのが現状です。生徒たちの言語活動を充実させるために、十分な時間を確保していきたいと思います。ただ運動を行うのではなく、授業の中で考えさせ、共有し動きを言葉で伝える力や苦手な子にアドバイスできる力、それを受け止める力などが育つような工夫をしていきたいです。そのためにも、まずは多様な観点からアプローチを行い、「気づいたことは何ですか?」「どんな様子だろう?」などの問いや「違いや共通点はあるかな?」と比較し、新たな視点で見る力を養う問いを行い、そして言葉や文章でまとめる力を育てる工夫を、授業の中に入れていきたいと思います。

今回の研修を通して、授業づくりと学級づくりは繋がっているということが一番印象に残りました。私自身の1学期のクラスの状態を振り返り、果たして授業がしやすい学級づくりをしていたかと問うと、自信をもって「はい」と返事ができない自分があります。ただ単に「楽しい」「雰囲気の良い」学級づくりに関しては自信を持つことができますが、「授業がしやすい」学級づくりに関しては全く意識すらできていませんでした。この気づきを大切に、2学期からの教育活動に活かしていきたいと思います。

上手に褒めることについて、校内でもほかの先生方の授業を見学させていただくと、子どもたちを褒める語彙がたくさんあるなど感銘を受け、ノートにたくさんの言葉をメモするのですが、授業中にはなかなかパッと言葉が出てこず、いつも同じような一遍通りの褒め方になってしまっていると反省しています。しかし、吉川先生がおっしゃっていた「～になってきたね」や「1か月前に比べると～だね」という言葉なら、授業中私でも使えそうだと感動しました。小学校だからこそ毎日長い時間子どもたちと過ごしているので、小さな変化にも気づき、小さな変化でも言葉にして伝えていきたいと思いました。

今回の動画の最初の方に、1学期の授業を振り返ってどうでしたかといくつか質問がありましたが、これができる!と自信を持って言うことができる項目が少なく、反省しました。今回の研修の学びを生かしながら、これからも引き続き教材研究に励み、授業の質を高め、2学期、3学期が終わったころにもう一度振り返り、できたと思えることを増やしていくことを目標に日々精進していきます。

すごくよく分かります!まさに『隣の芝生は青く見える』といったように、もし、となりの先輩のクラスが楽しそうに見えて、「自分なんて…」「自分はまだまだ…」と感じている人は、考え方を変えてみましょう。「知らない」「分からない」「できない」は決して悪いことではありません。「わずか半年で何でも分かって、何でもできるんだったら、私の30年を返してくれ!」と大先輩に言われたことがあります。できないことより、できること・できるようになってきたことに注目することを自分にもしてあげましょう!!

自分にできることの一つに「あいさつ」があると思います。みなさんは普段、職場で、クラスで、日常生活で自分からあいさつができていますか?ポイントは「自分から」です。出勤した時の職員室や、朝一番にクラスの子もたち入ってきた教室で「おはよう」を自分から言えていますか?吉川先生の講義にもあったように、声の明るさや大きさもそうですが、気持ちが下がってしまうとなかなかできないのがあいさつです。授業づくりや指導技術は、これからも学び続けるものですが、まずは社会人として・大人として・人としての姿に立ち返って、今の自分にできることを大切にしてください。そして、モデルとしての自分を客観的に捉えるめやすとして、普段のあいさつをこの機会に振り返ってみてください。

「ありがとう」という言葉も、気持ちが高まらないとなかなか言えない言葉だと思います。本来ならありがとうを伝える場面で「すみません」とか「ごめん」と言うことはありませんか?つい口にしてしまう否定的な言葉で自分で自分をさげすむ必要はありません。

先生が元気でいる・笑顔でいることで、子どもたちも元気になる・笑顔になれます。反対に子どもたちの元気や笑顔で私たちは笑顔になれる、そんな良好な関係をこれからも築けるように、今できる「あいさつ」をしましょう。研修では初任者同士のつながりで、また明日からも頑張ろうと思える時間にしましょう。

TSUNAGARI FOREVER

